

## 父の見立ての

## 揺りかご

写真・文

津島修三

〈秋田市在住〉

東京都渋谷区に在住の佐藤南海さんには、同じ年のお兄さんがいる。つまり、二人は双子。ご両親は学生結婚だった。結婚してまもなく、南海さんたちが生まれた。若い新婚夫婦にとって、双子の育児は大変だった。特に、二人は寝ぐずりがひどかったという。揺りかごで揺すってやるとどうにか寝入るのだが、なにしろ双子だから、一人がむずかるとせつかく寝入った一人もまたむずかつてしまい、さりとて小さな揺りかごに二人同時に寝かせるわけにもいかず、お母さんは疲労困憊だった。それを見かねたお父さん、何かいいものはないものかと、新宿の小田急ハルクに出かけていった。

そこで見つけたのが、若い新婚夫婦には少し不釣り合いな立派なロッキングチェアだった。値段もなかなかのものである。しかしお父さんは迷わずそれを買った。大振りの座面は、赤ちゃんを二人寝かすけるにはちょうどいいサイズ。佐藤家にこのロッキングチェアが届いた日からは、南海さんたちは魔法にかかったように毎日穏やかにすやすやと寝入ったという。

佐藤家の揺りかごに抜擢されたこのロッキングチェアは、秋田県湯沢市に本社工場がある家具メーカー「秋田木工」でつくられたものだ。高圧蒸気で蒸した木材を職人の力技で曲げて形を作る曲木という製法でつくられている。ドイツで生まれた曲木家具は、日本でも一九〇〇年代初頭から多くの家具メーカーが取り入れていたが、手間がかかることと熟練した職人技が要求されることから、今では本格的な曲木家具メーカーとしては秋田木工が国内で唯一の会社になってしまった。

佐藤家にロッキングチェアがやってきたのは三十四年前のことである。後半の十年ほどは物置にしまわれたままになっていた。今から二年前に家を建て直したところになった時、処分することも検討されたが、それはお父さんが渋った。しかし、クッションはへたり、布地も傷み、そのまま残すにはいかにもみすばらしい。南海さんがインターネットで調べてみると、埼玉県三芳町に東加工所という椅子の張り替えをしている会社があり、そこに張り替えを頼むことにした。

張り替えを終えて佐藤家に戻ってきたロッキングチェアは、東加工所の職人技で美しく蘇り、新築のリビングルームに置かれて、また一家の生活の中に迎え入れられた。一家の歴史のスタートを支え合った間柄なのだから、もう立派な血の通った家族の一員、なかもきれいな。

秋田生まれのこの幸せなロッキングチェアは、今も東京の空の下で家族に囲まれて、穏やかな日々を過ごしている。



一時は手放そうかという意見も出たが、お父さんが渋り、娘が修繕引受先を探し、お母さんが張り替えの生地の色を見立てお金も出した。リビングの日だまりの中に自分の居場所を見つけたロッキングチェアは、家族の愛に包まれた幸せなおばあちゃんのようなでもある